

2021年度 事業報告

生活介護事業・就労継続支援B型事業（ポップコーン）

＜当施設の新型コロナウイルス感染症対策と感染者出現の対応について報告＞

今年度も「障害のある方の命と健康を守る対策を第一にとりつつ、できるだけいつもと変わらない生活を続けられるようにどう支援していったらよいか」を日々考えながら取り組みました。

新型コロナウイルス感染症対策として、玄関にて検温や体調確認と手指消毒。日中においても手洗いや手指消毒、体調管理、3密の回避、こまめな換気、そして人との距離の確保といった基本的な対策を徹底してきました。ただ、生活のあらゆる部面で介助が必要となる仲間が多い施設において、とりわけ仲間と職員とのソーシャルディスタンスを十分に確保することは不可能であり、また、マスクの着用に困難を示す仲間も多くいます。それでも第5波までは、仲間、職員、および家族が感染することなく、濃厚接触者に認定されることがない状態を確保してきました。

しかし、オミクロン株により感染流行第6波において、全国的に過去に経験のない規模の感染者数が報告され、当施設の仲間にも初めて感染者（診断：みなし陽性）が報告される事態となりました。その結果、保健所に連絡し指示を仰ぎながら一定期間休所（仲間・職員合わせて50名程度が一定期間の自宅待機）することになりました。幸いにも感染者は重症化することなく回復し、休所期間中に他の仲間・家族・職員に感染者は確認されず、クラスターの発生にはあたりませんでした。

感染発生時には、理事会や保護者、各関係機関等に報告し情報などを共有しながら進めていくなかで様々な問題や課題が見えてきていたので紹介します。

- ① 今回の診断は、「みなし陽性」。保健所からは、「確定診断（PCR検査で陽性結果がでること）ではないため介入（濃厚接触者の特定、聞き取り、PCR検査等の実施）が可能な実態。
- ② 緊急時における施設運営について：緊急時（仲間・職員合わせて50名程度が一定期間の自宅待機）には、現場部門、運営部門等のチームを編成するなど、組織として対応する体制を確保することを含めた「緊急事態発生時の対応や施設機能維持に関するマニュアル」を早急に作成することの必要性。
- ③ 代替サービスの実施について：自治体は、代替サービスという制度をつくり、代替サービスに係る利用者負担に対し給付費を交付するというかたちで緊急事態の施設運営の支援を行う。しかし、補助金の不正取得事件が報道されることが多いためか、代替サービス制度の利用を許可することに行政側が慎重にならざるを得ないことは理解できるが、あまりにも疑いをもった対応に心を痛めた。今回は、保健所の介入・指導がほとんどないために自力で奮闘せざるを得なかったわけなので、行政にはこうした実態を配慮いただき、親身な、かつスムーズな対応を願いたい。

なお、代替サービスを実施することによって、家庭での生活に存在する困難さ（生活リズムの乱れ、入浴ができないこと、退屈な日々を送らざるを得ないことなど）を知る事ができ、あらためて毎日通所できる場が在ることの大切さを感じる事ができた。また、電話を待ち望んでいる仲間の様子から、間接的なコミュニケーションを通じて新たな姿や能力をうかがい知ることができた。

- ④ 保護者との連携・保護者への支援について：感染症に対する保護者の意識（危機感の捉え方）にも大きな差があることを知れた。自宅待機期間にも仲間と外出をするなど基本的な対策を遵守することの難しさ。緊急事態中における保護者の就業保障のための社会インフラの充実という課題。

以上、この間の状況とそこから見えてくる課題について整理しました。今後は、今回の教訓をいかし安心・安全な施設づくりを継続・発展させていきたいと思えます。

1 <活動報告>

「生活介護事業」

今年度は、新たに4名の仲間が加わり登録者数は、35名。感染症拡大や流行等の影響もあり平均利用人数は30.4名であった。コロナ禍で作業や活動をどのように進めたらよいか悩みながらも、一人ひとりが主役になれる時間を大切に、安心して過ごせる環境づくりを目指して取り組みました。

作業では、今年度も外部との接触が多いアルミ缶つぶしを中止し、感染対策を徹底しつつ仲間たちの得意なペットボトルラベル剥がし、分別リサイクル機への挿入。そしてメルシーのカタログの袋入れ（令和4年1月末で打ち切りとなりました）、リサイクル製品の分別（金属とプラスチック等の仕分け。例えば、CDとケース、リモコンと箱の分別など）を行いました。作業で得た収益は仲間たちのお給料として毎月支払いました。

ペットボトルリサイクルは重度の障害をもった方たちにとって、とても分かりやすい作業でラベルを剥がす、ボトルを袋に入れる、手渡しするなど分業で行い、その方の能力が十分発揮できるところで作業を行いました。

昨年度からリサイクル製品の分別を進めていくなかで、見慣れている作業内容（CD ケース分別）やその場で完結し見通しが持ちやすい作業工程も相まって、より作業に集中し根気よく取り組めるようになってきた仲間たちがでてきた。そこで、職員間で話し合い、作業時間を増やし、1日作業できる力を大切に捉えたいと考え、今年度から週に2日間、1日作業をする曜日を設け行った。継続して行っている作業は、月日の経過とともに、着実に作業意欲（始まりの時間が近づいてくると準備にとりかかる仲間など）や能力の向上（金属部品からのテープはがしやハサミを使い配線をきる事など細かな工程）がみられました。

活動では、今年度も仲間たちの楽しみにしていることが次々に中止や自粛せざるおえない現状が続くにつれ皆残念がっていました。あらためて職員間で話し合い、仲間たちの楽しみや笑顔を取り戻すためにどのようにしたらよいか。当施設が大切にしている実体験こそ仲間たちの成長に繋がっていくと考えた結果、ないものはつくることにしました。例えば、ポップコーン畑にサツマイモの苗を植え、成長を観察し、収穫して試食（外で焼き芋ができる工程を見てもらいながら、出来上がりを食べました）するまでの一連の流れを仲間と職員一緒に手を取りあって行いました。

仲間たちの多くは、実際に土に触ることや苗を植えたり、収穫することは初めて。最初は、牛乳パックで作ったプランターにラディッシュを植え、水をやり成長していく様子を観察しながら、収穫し試食していく流れから始めました。また、外での活動が苦手な仲間たちにもリアルタイムで感じてもらいたとの思いから、創意工夫をし畑からオンライン中継も実施しました。

五感で楽しむ経験を重ねていくなかで、普段は、絶対に葉や野菜等を触ろうとしたり、食べようとしない仲間たちも採れたて新鮮野菜の美味しさにはまっていきました。畑では、サツマイモ以外にも、カボチャを育て、収穫後は皆で美味しくいただいたり、岐阜市新庁舎福祉ショップバザーにも出店、販売しました。

それ以外の活動は、運動会やハロウィンパーティー、お菓子の買い物の体験、芸術活動、クリスマス会等を感染症対策を行いながら仲間たちの笑顔や主役になれる時間を大切に捉え取り組みました。

「就労継続支援 B 型事業」

今年度は、新たに 5 月から 1 名の仲間が加わり、登録者数は 5 名となりました。仲間たちの通所頻度は、新規の仲間 1 名は、毎日出勤。2 名の方は、他サービスを利用しているため、週 1 回の利用。そして 1 名の方は、なかなか毎日の通所や、時間どおりに出勤や退勤することが難しく、なにより日々の生活のなかで気になる事がおおくなり、月日の経過と共に通所頻度が減っていききました。

主な仕事の内容は、コーヒーの製造、販売に力を入れて取り組みました。作業工程は、コーヒー豆のピッキングからグラムを測り袋詰めと多岐にわたります。仲間は、色々な作業工程を覚えていくにつれ、自信がついてきて、「バザー販売（岐阜市新庁舎福祉ショップバザー）にいきたい」や就労継続支援 B 型の見学の方に作業工程を紹介できたり、着実に自分の仕事というプライドをもてるようになりました。

今後は、バザー販売に定期的に出店し商品を知ってもらいながら、新商品の開発や販売（社協実施：商品開発、改善等のコンサルタント派遣事業などを活用）、そして既存商品の販路を拡大し工賃アップを目指していきたいです。また、仲間たちの出勤日数をどのように増やしていったらよいか課題であるとともに、通所者が増えるように各機関（特別支援学校や相談支援事業所、岐阜市就労説明会など）への働きかけを積極的におこなっていきたいと考えています。

2 各事業の取り組み

「生活介護事業」

重度・重複障害者を中心に生産活動や生活を通して発達を支援し、地域社会の中で生きがいを感じていけるように個々の障害に合わせた創作的活動を行った。

(1) 個別支援計画作成

(2) 身体等の介護

(3) 入浴（週 2 回）

(4) 生産活動

- ・雑貨製品 ・製造販売（オープン陶土工芸、画鋏、クリップ、ビーズ、フェルト製品）
- ・アルミ缶 ・ペットボトル ・飲料用パックリサイクル回収、分別
- ・軽作業（カタログ冊子の袋入れ。CD とケース、リモコンと箱の分別など）

(5) 創作的活動

- ・調理実習 ・リトミック、音楽活動、スヌーズレン ・工作等創作活動 ・芸術活動

(6) 外出・・・散歩

(7) 送迎

「就労継続支援 B 型事業」

自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、生産活動その他機会を通して、その知識及び能力の向上のために支援を行った。

身体的に重度な方には、休憩、ストレッチをとることを進めるなど体調面を留意して行った。

(1) 個別支援計画作成

(2) 生産活動

- ・下請け作業（1 ヲ所の会社） ・物品販売

(3) 送迎

(4) 工賃

3 2021年度 年間延べ利用者数及び開所日数

生活介護事業 (定員 30名 2021年3月31日 現在 35名)

(1) 開所日数 241日

(2) 年間延べ利用者数 7322人 (1日平均利用人数: 30.4人)

就労継続支援B型事業 (定員 10名 2021年3月31日 現在 5名)

(1) 開所日数 241日

(2) 年間延べ利用者数 387人 (1日平均利用人数: 1.6人)

4 年間行事

4月 年度始め式 12月 クリスマス会 1月 新年会

*毎月地域アルミ缶回収を行った。

令和3年度事業報告

共同生活援助事業所（グループホーム）

ふぁみりいポップ

入居者 5名

開所日 月、火、木、金の夕方から翌朝

※祝日はお休み

※ポップコーンの開所日に合わせて変更有

大切にしたこと

- ・入居者の第二の自宅としてくつろげる場になるように努めました。
- ・必要に応じて保護者と密に連絡をとりあいました。
- ・地域の方との交流をもつため、自治会活動等に参加しました（職員）。

具体的な支援内容

- (1) 共同生活援助計画の作成
- (2) 食事・排泄・入浴等日常生活の介助
 - ・入居者の安全・安心を第一にして介助しました。
 - ・てんかん発作をもっている入居者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。
- (3) 趣味やお楽しみの時間の提供
 - ・ゆったりした時間の中でくつろげるよう、テレビやDVDやパソコンを用いました。
 - ・入居者によってソフトブロック、絵本、タブレット端末を利用しました。
 - ・仲間の誕生日祝いや季節の行事など、イベントを2か月に1回程度企画しました。
- (4) 日常的な相談や話し相手
 - ・日常の中で話し相手になりました。
- (5) 食事の提供
 - ・健康に気を配った献立、心をこめて調理しました。
 - ・その日の献立を仲間が見やすいように掲示しました。
- (6) 健康管理・金銭管理の手助け
 - ・気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
 - ・必要に応じて、内科や歯科などの受診、グループホームでの訪問診療に同行・同席しました。
 - ・服薬、与薬管理を徹底しました。
- (7) 夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助
- (8) 緊急時の対応
- (9) 日中活動の場等との連絡・調整
 - ・仲間の状態等の情報を書類やFAXでポップコーン（日中活動施設）と毎日共有しました。
- (10) 衛生面の管理
 - ・行政からの通知を参考にしながら、新型コロナウイルスの感染対策を行いました。
 - ・CO2検知器の利用

一日の流れ

夕方 16時	帰所・入浴	翌朝 6時15分	起床
18時15分	夕食	7時	朝食
19時	自由	8時	出発準備
21時30分	リビング消灯	9時15分	出発
23時	個室消灯		

年間の記録

2020年

4月

地域 排水路の清掃参加（職員）

7月 誕生日会 花火

8月 地域 排水路の清掃参加（職員）

9月 誕生日会

10月 誕生日会 お月見イベント

12月 誕生日会

2021年

2月 誕生日会

3月 地域 排水路の清掃参加（職員）

※保護者帯状疱疹のため開所日とは別に4日開所しました

※新型コロナウイルスの対応で4日代替えサービスを行いました

令和3年度事業報告

短期入所事業所（ショートステイ） ほたる

開所日 月、火、木、金の夕方から翌朝

※祝日はお休み

※ポップコーン（日中活動施設）の開所日に合わせて変更有

受入実績

※利用登録者 18名（令和4年3月31日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	17	17	21	16	19	18	21	25	22	15	19	15	225
開所日数	17	15	17	16	17	15	17	17	16	13	15	17	192

利用者数は、のべ人数

大切にしたこと

- ・安心して過ごしていただけるように、仲間一人ひとりの生活の流れや職員の関わり方に注意を払いました。
- ・日ごろから保護者との連絡を密にし、必要なときに話し合いをもちました。
- ・家庭の緊急時は受け入れに努めました。

具体的な支援内容

(1) 食事・排泄・入浴等日常生活の介助

- ・利用者の安全・安心を第一にして介助しました。
- ・てんかん発作をもっている利用者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。

(2) 趣味やお楽しみの時間の提供

- ・ゆったりした時間の中でくつろげるよう、テレビやDVDやパソコンを用いました。

(3) 日常的な相談や話し相手

(4) 食事の提供

- ・健康に気を配った献立、心をこめて調理しました。
- ・その日の献立を仲間が見やすいように掲示しました。

(5) 健康管理・金銭管理の手助け

- ・気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
- ・服薬、与薬管理を徹底しました。

(7) 夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助

(8) 緊急時の対応

(9) 日中活動の場等との連絡・調整

- ・仲間の状態等の情報を書類やFAXでポップコーン（日中活動施設）と毎日共有しました。

(10) 衛生面の管理

- ・行政からの通知を参考にしながら、新型コロナウイルスの感染対策を行いました。
- ・CO2検知器の使用

一日の流れ

夕方

16時 帰所・入浴
18時15分 夕食
19時 自由
21時30分 リビング消灯
23時 個室消灯

翌朝

6時15分 起床
7時 朝食
8時 出発準備
9時15分 出発